

2025 年 7 月 31 日

2024 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 NPO 法人みんなのデータサイト

代表者・理事長 氏名 阿部浩美

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

原子力災害に備えるための実践体験学習

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2011 年の東日本大震災・東京電力福島原発事故をきっかけに 2013 年に任意団体として創設しました。全国にできた市民放射能測定室が測定した食品や土壌の放射能の値を一元的に集約、誰でも簡単に検索できるウェブサイト「みんなのデータサイト」を運営しています。自ら考え判断する材料として測定データを公開し、また学習ができるサイトを目指しています。2023 年に NPO 法人化しました。会員数 87 名。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

東日本大震災・原発事故の際には情報が錯綜、通信もままならない中、多くの人たちが無用な被曝を強いられてしまった。2024 年1月1日に発災した能登半島地震では幸いにも原子力災害には至らなかったものの、原発事故のリスクが改めて浮き彫りとなった。原子力災害は国の管轄、その他の災害対応要員は各自治体であり、訓練も別個に行われており全く連携されていない。市民自らが原子力防災について学び、放射線被ばく防護士として、万一の災害の際に自助、共助ができるよう、原子力防災について学び実践できる素地を作りたい。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

1)Zoom を介し放射線測定の基礎的知識と被ばく防護方法に関する事前基礎学習 90 分×8 コマ+補講 2 コマを実施しました。
2)宿泊型実地研修(1泊2日)により高放射線量が残存する被災地での実践的な測定と被災地視察を通じた原子力災害からの復興の現状と課題を確認しました
3)研修成果の確認として、レポートの作成・報告と確認テスト(個別の口頭試問)を実施した。合格したものに修了証(放射線被ばく防護士認定証)を発行しました
4)レポートの作成をし、ウェブサイトに参加していない人々にも学習の追体験ができるコンテンツを公開しました(<https://minnanods.net/bougoshi/entry-1764.html>)

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果:基礎学習受講者 21人(北海道～沖縄・フランス含む 14 都道府県＋海外) 実地研修 8人 放射線被ばく防護士認定 6人 です。

成果:とりわけ実地研修では実際に被災地を目の当たりにし、被災当事者から直接話を聞き案内してもらうことで、原子力過酷事故がどのような厳しい状況をもたらすかわかりました。放射線測定の実践についても、緊張感を持って取り組み測定の基礎を身につけました。参加者の満足度が高くぜひ今後も続けてほしいとのコメントに手応えを感じています。また現地に足を運び連携した事業にすることで、被災地との人的なつながり・相互理解が深まりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

基礎学習では、参加する方々の知識レベルの差が大きく、高校生程度の物理の知識というハードルが思ったよりも高かったです。補講を通じて理解を深めていただいたが、埋められないものもありました。今後、テキストやカリキュラムを見直すことで、よりわかりやすい講座を目指していきます。

自治体の防災課にもお知らせを一斉にしましたが、反応がなかったのが残念でした。他方市議会議員さんは2人参加いただけました。今後は、一般の方々への参加を呼びかけるとともに、引き続き行政に近い方々への周知に努めていきたいです。放射能測定という数値のみならずそこには人々の生活があることを忘れず今後もこの研修を普及してまいります。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



原子力災害に備えるための 実践体験学習 講座

受講生
募集中

主催：NPO法人みんなのデータサイト

『原子力災害』から命と健康を守るには、これまで自然災害時に経験・蓄積した知識は役に立ちません。なぜならば、『原子力災害』では災害を五感で感じることができない放射線とそれによる被ばく被害が生じるからです。

福島原発事故を経験し多くの教訓を得たにもかかわらず、公助として示された原子力防災の内容は事故以前と何ら変わらず、相変わらず住民の被ばく防護を軽視した内容です。

この企画研修では、放射線と放射性物質の種類、放射線に応じた測定法、被ばく防護法等の基礎事項を確かな知識として学び、原子力災害被災地での実践研修を通じて測定技術の習得と被ばく防護への対応力を身につけた自助共助のリーダ的人材の育成を目的としています。

1

基礎学習

①Zoomによる事前基礎学習(2025年2月)

募集人数制限なし（基礎学習のみの受講可能）

全8回(各週2回×4週) 土曜日pm 7～pm 9

※参加費2,000円（教材費、送料）

2

実地研修

②宿泊型実地研修(2025年3月22日-23日、1泊2日)

受け入れ人数最大15人（事前基礎学習の受講必須）

※参加費10,000円（宿泊費、防護資材費、現地移動費が含まれます。）

※現地集合場所（福島県JR郡山駅）までの交通費は自己負担願います。

申込方法：「①基礎学習と②実地研修の両方参加」または「①基礎学習のみ参加」のいずれかを明記した上で、申込者の氏名・住所・メールアドレス・電話番号を2025年1月15日までにメールまたは下記申込フォームでお知らせ下さい。全ての研修を修了され、確認検定を通過された方にはNPO法人みんなのデータサイトから放射線被ばく防護士の認定証を発行させていただきます。参加費の納入方法については事務局からご連絡いたします。

この事業は、2024年度 真如苑市民防災・減災活動助成を受けて実施しています。

申込先

〒960-0201
NPO法人みんなのデータサイト
福島県福島市飯坂町字一本松11-7
024-573-5761
minnanods@gmail.com



申込フォーム



ウェブサイト